

## シラバス

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ		
担当教員	橋本、平川、福崎、田島、隈		
配当年次	3年次	開講時期	通年
単位区分	選択	単位区分補足	
授業形態	実習	単位数	4単位（200時間）
準備事項	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱを履修しなければ、これを履修することはできない。		
備考	3年次に実施するものである。詳細は実習指導の中で伝える。		

### 【授業のねらい】

ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術の統合を目的として各実習施設等で実習を行う。これによって社会福祉士としての価値と倫理の重要性を確認するとともに、各実習領域における支援の実践を学ぶ。またこれまでに学んできた知識や技術を背景として、支援を必要としている人の抱えている困難や生活上の課題（ニーズ）の把握に努め、地域との接点、人との接点、といった具体的な生活の場に入るための支援計画の立案を行う。また社会福祉士の役割である連携の構築、権利擁護の具体的な取り組みについて学び理解する。

### 【授業の展開計画】

1. 利用者やその関係者（家族、親族、友人等）、職員等と円滑な人間関係を形成する。
2. 施設等に関する機関や地域住民とのネットワーク構築と、その役割を理解する。
3. 円滑なコミュニケーションを背景とした利用者との信頼関係に基づいて援助関係を形成する。
4. 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成を行う。
5. 支援計画の実践と振り返りを行うことで支援計画の評価を行う。
6. 利用者やその関係者（家族、親族、友人等）への権利擁護活動の実践を学び、実際の活動に参加する。
7. 多職種連携について実際に学び、チームアプローチの実践的理解を深める。
8. 実習施設の地域における役割を理解し社会福祉士として地域に対する働きかけを実践的に理解する。
9. 地域理解を背景に分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発を理解する。
10. 支援する際のフォーマル・インフォーマルな資源の活用法について学び理解する。
11. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関との連携及びその具体的内容を実践的に理解する。
12. 総合的かつ包括的な支援における地域住民との連携及びその具体的内容を実践的に理解する。
13. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営、人材の管理について理解する。
14. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について理解する。
15. ソーシャルワーク実践を通してアウトリーチやプレゼンテーション等の各種技術を実践的に理解する。

### 【履修上の注意事項】

テキスト、配布された資料は必ず持参のうえ講義に臨むこと。

スマートフォンを机の上に置いたままの受講は認めない。

積極的な受講姿勢を保つこと、教員から質問されたときは自分の受講姿勢を示す場として活用すること。

### 【評価方法】

実習期間中は体調不良などの特別な場合を除き、休みや遅刻は一切認めない。

実習記録の不提出、実習態度不良の際は、実習指導者と相談の上、実習中止も起こりうる。

実習期間中の守秘義務や、利用者に対する姿勢、学ぶ姿勢等が評価の対象になる。

### 【テキスト】

『ソーシャルワーク実習指導・実習（社会専門）』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、中央法規出版、最新版

### 【参考文献】

適宜、指示をする。